

(学年) 第3学年、(教科・科目) 公民科・現代社会

一斉学習

(単元) 日本国憲法の人権保障

(本時のねらい)

日本国憲法における人権保障の基本的な考え方や法の下での平等の意義、自由権的基本権について把握させる。

(ICT活用方法)

人権や生命の尊重が国内外でどのような現状であるかを説明するために、従来は教科書や新聞・ニュースの内容を利用していたが、よりインパクトのある題材を視聴覚的に電子黒板に写すことにより生徒全員の注意が集中し、資料が意図的に配列できるという点で有効である。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目的を聞き、これまでの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治も経済も国際関係も、すべて人の命に関わっていることをおさえさせる。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ここ数か月の新聞記事の中から、戦争、テロ、犯罪などに関わるものをいくつか提示する。 生き物が死んだらどうなるか考える。 憲法の内容と現状について考える。 死刑の執行に関わる新聞記事、IT教材を見ながら授業プリントをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生命の尊重」とはほど遠い人間社会の実態があることを感じ取らせる。 生徒の考えや受け止め方を聞いてみる。 憲法で保障されている基本的人権の身体的自由を取り上げ、矛盾の存在する実態について感じ取らせる。 一度死刑にすればその死刑囚は生き返らないし、犯人を死刑にしても被害者が生き返るわけではない。それゆえ、この制度をめぐる論争が生じていることに気づかせる。(死 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を用いて画像、動画を図示する。 電子黒板を用いて画像、動画を図示する。

		刑反対論のみに偏らないように留意する。)	
まとめ 分	・本時の学習の確認をする。	・命をいつくしむ人間本来の感情をについて理解を深めさせる。	

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

画像等の視覚的情報を用いることで、生徒の理解を促し、興味関心を持たせることができた。授業展開について見直し、生徒が自己評価できる授業展開へ改善していきたい。一人一台端末の操作については生徒から学ぶことも多く、このような学習機会を重ねて、指導力の向上を目指していきたい。